

#### 1) まちを結ぶ緑をつくる

町民が安全で快適に生活し、自然とともに暮らすまちづくりを実現していくためには、まちの中のさまざまな緑を結び、連続性のある緑をつくりあげていくことが大切です。

まちを結ぶ緑をつくりあげていくため、具体的な計画づくりに取り組んでいきます。

## 11

### 緑のネットワーク構想の推進

- 音更のまちを緑で結ぶ具体的な構想とプログラムづくりを行います。
  - 森林、樹林地、河川、道路、公園緑地など、まちをネットワークする緑はさまざまです。また、それぞれの緑は、場所によって条件や環境が異なります。それぞれの緑や場所に関する調査を行い、保全と整備の具体的な方針づくりを行います。
  - 緑のネットワークを生かしたレクリエーションや防災の拠点として、主要な公園緑地や公共公益施設などの緑化と整備を進めます。



● 鈴蘭公園

- 緑のネットワークは、緑の基本計画ワークショップで参加者からの提言が最も多かった取り組みです。

## 2) 水辺の空間の緑化

まちの中の連続的な緑の代表として、河川空間と道路空間の緑があげられます。ここでは、連続的な緑の中でも、まちの中の身近な自然空間である水辺の空間（河川空間）についての取り組みをまとめています。音更の自然の代表ともいえるかけがえのない川を、未来に伝えていきます。

12

### 川辺の緑づくり

- **川辺の生き物と景観に配慮し、連続した緑化や自然環境の保全と復元に取り組みます。**
  - 川辺の生き物調査や情報収集を行い、それぞれの生き物の生息環境にあった緑化を行います。
  - 河畔林をはじめとする水辺の植生の保全と復元につとめ、魚や鳥などが生息する豊かな自然環境をまもります。
  - 緑化だけではなく、美しい河川環境をつくりあげるため、川辺の清掃美化活動を行うほか、水質浄化の取り組みを進めていきます。
  - 川辺の生き物に配慮した護岸の整備や河畔林の保全などは、河川管理者と協力しながら進めていきます。

13

### 生き物とのふれあいの場づくり

- **水辺の生き物を身近に感じることができるレクリエーション活動の場所として、水辺の空間を活用します。**
  - 身近な環境学習や自然に親しむ場として、川辺の観察路や観察スポットなどや、サイクリングロード・ジョギングコース・散策路を活用し、川とまちをつないでいきます。
  - また、水辺の空間は火災発生時に延焼を防止する機能を持っているため、安全な避難路としていくためにも、川のまわりの緑化を進めます。

■ 川辺の緑づくりは、緑の基本計画ワークショップで参加者からの提言が多かった取り組みのひとつです。  
また、緑の町民アンケート調査結果でも、町民の川に対する関心の高さがうかがえます。

■ 緑の町民アンケート調査  
参考資料ー4

### 3) みちの空間の緑化

ここでは、まちの中の連続的な緑の代表のうち、町民の生活に最も身近な、みちの空間（道路空間）の緑についての取り組みをまとめています。

彩り豊かなボリュームある緑でまちの中をつなぎ、うるおいのある街並みと快適で安全なまちづくりをめざします。

14

## 緑のレベルアップ

- **みちの空間の緑を維持管理する指針づくりを行い、ボリュームのある緑をつくります。**
  - 道路の幅や、住宅地・商業地・工業地といった道路のまわりの特性に合わせて街路樹の剪定方法などを考え、ボリュームある緑の維持管理指針をつくります。
  - 行政と地域に住む人たちとの協力による、緑化や維持管理のあり方を考え、地域のシンボルづくりや身近な生活環境の向上をめざします。
  - ボリュームのあるみちの空間の緑化を推進することにより、災害発生時の避難路や防火帯としての機能を高め、安全なまちをつくります。
  
- **植栽の方法を工夫し、彩りあふれる街並みをつくりあげます。**
  - 地域に住む人たちの意向を反映しながら、街路樹などの樹種選定や、緑化方法の検討を行い、地域のシンボルとなる街並みをつくります。
  - 高木・低木・花・プランター・ハンギングバスケットなど、さまざまな植栽材料と緑化方法の中から、住宅地や商店街・工業団地など、道路のまわりの特性や条件に合わせて、みちの空間の緑化を進めていきます。
  - また、道路のまわりの景観や建物などと調和する街並みづくりを考えていきます。

■ みちの空間の緑の維持管理については、緑の基本計画ワークショップにおいて、交差点の安全性、標識などの視認性などを改善するため、維持管理や街路樹の植え方に対して提言されています。